

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎ 364-8442

自動交付機設置

大代地区公民館に十月一日から諸証明の自動交付機が設置されました。御利用時間は、休館日を除く午前九時～午後五時までです。自動交付機は、カードをいれて画面をタッチするだけで、簡単に次の証明書が御利用できます。

- ・住民票の写し
- ・印鑑登録証明書
- ・外国人登録済証明書
- ・市県民税課税・非課税証明書

- ◆御利用する場合は、暗証番号を登録した市民カードか印鑑登録証が必要です。
 - ◆暗証番号の登録手続きは市役所市民課窓口で行って下さい。
 - ◆既に印鑑登録証をお持ちの方は、印鑑登録証を持参して下さい。
 - ◆暗証番号の登録手続きは本人以外出来ません
 - ◆本人確認は、照会書を本人宛て送付します。
- ただし、免許証等官公署で発行した写真付きの身分証明書があればその場で登録できます。



ヒヤラギ

第三回スポーツ大会

優勝 大代南

十月十日「体育の日」行われた大代地区スポーツ大会には多数御参加いただき誠にありがとうございました。お陰様で秋晴のもと大代地区民約四百名という大勢の方々に参加していただき、熱戦の結果「大代南」が優勝、「大代中」が準優勝いたしました。その後全員で芋煮会を催し盛会のうちを終了でき楽しいスポーツ大会でありました。

今後とも子ども会育成会活動に対しご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、各育成会長はじめ役員の方々には早朝よりご協力いただき感謝申し上げます。

大代地区子ども会育成会連合会
会長 阿部 光雄

「おくのほそ道」よ、どこに居る

元禄二年三月二十七日、松尾芭蕉は曾良を伴って「奥羽行脚」の旅に出た。江戸「深川」を出て美濃の国「大垣」に着いたのは八月二十一日頃で「約百五十日間・六百里の旅」であった。コースは「深川―日光―那須―郡山―白石―仙台―多賀城―塩釜―松島―石巻―平泉―岩出山―尾花沢―酒田―

象潟―温海―新潟―親不知―金沢―松岡―敦賀―彦根―大垣」であった。「この旅」は、四十六歳の時、五回目の「紀行」であり、元禄七年、五十一歳の時「能書家・素龍」によって「おくのほそ道」が清書された。「月日は百代の過客にして行きかふ年も・・・」その年の十月十二日永眠されたが、その四日前に「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」と詠まれ、この句が晩作となった。

文献によれば「おくのほそ道」は、実在した「細い道の名前」に由来したものであるというが、一体どこにあるのだろうか。「確定的ではないが「今市橋」を北へ渡り「六、七丁西へ行った所の谷間」にあった「十符の菅」（とふのすげ）の辺の「田の畔」の道（たんぼのどてにあるみち）のことではないかと。私は、この辺りの道路は自動車で何回も通っているし、歩いてもみたが跡形も無い。三百年も昔の道（たんぼみち）のことであるので、姿を消したと思われる。

人生五十年といわれていた時代に残り少ない人生を、芭蕉はなぜ草鞋を履き、雨に打たれて、十年間も苦勞の多い旅に出たのだろうか。三百年の時を越えて、今なお脈々と人々の心に生き続ける芭蕉の精神とは、一体何であったのだろうか。まさに、奥羽、ロマン、発見。

大代西 藤田 良多

連載 読物 かつて子供だった大人のための 楠太郎誕生秘話(五)

若生一徳 (大代西)

おじいさんは突然「わっはっは」と大声で笑いだしたのです。笑っているうちに、心の底からおかしくなって、またひとしお烈しく笑いこけました。雑草など、刈り取って前進すればそれでよいのでした。昨日という日が過ぎたからこそ、今日という新しい日がやってきたのです。今日は、今日という新しい日をすすむにふさわしい心で、生きる事が肝心なのでした。

おじいさんは、よろこびに心が躍って、おばあさんを楽しい言葉のかずかずで飾り、とびきりよろこばしてあげたくてたまらなくなりました。

おじいさんは、家の横手を流れる小川のほとりで洗濯している、ぼつんとちっぽけなおばあさんに目をこらすと「おうい、おばあさん！すまなかったなア。おれが至らなかつたばかりに、辛いおもいをさせて、許して下さい」声高らかにそう叫んだのです。

叫んでいるうちに、「今すぐ、土下座してでも詫言なくては！」との衝動にかられたのであります。

おじいさんは農機具をほうり出すと段畑の屈折した細道を、よろめきながら、大急ぎかけ下りはじめました。おばあさんも、だんまり職術をとっていたが、心は右往左往なのでした。

御祝儀 お見舞いは

三千円を限度にお返し物

はしないようにお互い

気を配りましょう

あいさつは心のふれあい あいさつしましよ 出あつた人と あいさつしましよ

社会教育ってなに

吹奏楽ミニコンサートの案内

社会教育のあり方を、やさしく講演いただき、東豊中の吹奏楽部員によるミニコンサートまでついた楽しい勉強会ですので、皆さまお誘い合わせて、どうぞご来校下さい。

日時 平成八年十一月三十日(土)

午後一時三十分～三時三十分

会場 東豊中学校体育館

講師 継田 光彦 先生

日吉台小学校校長

元泉ヶ岳青年の家

社会教育主事

東豊中学校区地域ぐるみ

生徒指導委員会

共催 大代防犯協会

大代ゴルフ愛好会だより

平成八年度第三回ゴルフ大会を九月三日(金)参加者二十名で杜の都ゴルフ場で行いました。

優勝 小野 幸次郎

準優勝 小野 栄昭

第三位 右田 忠 誼

今回は、十一月十七日(日)松島チサンで行います。今年最後のコンペとなり懇親会をかねて表彰式を小野屋ホテルで行います。今回は盛沢山のスポンサー賞がありますので振るってご参加ください。

申込み先 幹事 小野 栄昭

大代ゴルフ愛好会 井山 栄

南区秋祭り盛會に終了

秋晴れの十月十三日(日)大代南区の第二回さわやかファミリー秋祭りが盛大に開催されました。

多賀城消防署員指導による消火訓練、耐煙中避難訓練、グラウンドゴルフ、公園内マラソン大会、O×クイズ、ト汁と炊き出し飯試食会、踊りとカラオケの演芸会など、各種催しも参加者の協力により終始なごやかで実りあるものであったことに感謝申し上げます。今後も体力づくりと健康の向上、会員相互の親睦を深めるため、誰でも、気軽に参加出来て楽しめる行事にしたいと考えております。最後に今回の秋祭りにご尽力いただいた皆様方に対して厚くお礼を申し上げます。

総務部長 渡辺正平

秋の火災予防運動

十一月九日～十一月十五日

便利さに

慣れて忘れる

火のこわさ



市民登山教室に

参加して

登山日和に恵まれた九月二十九日、岩手県は秘湯で知られる夏油温泉に登山口をもつ一、二九、八メートルの駒ヶ岳でした。牛形山、経塚山とともに夏油三山とも呼ばれ、登り二時間三十分下り二時間の一般的なコースで整備もゆき届いている。今回の参加者四十名は、二十七才から七十三才と年齢の差があり平均年齢が五十四才、内男性が十五人でした。

今、中高年の登山者ブームとか、ある書店では中高年の登山に関するコーナーをもうけているところもあるようですが、やはり市民登山も申し込みの時間前に定員になるほどの人気があるそうです。今年も山岳会員二人がサポートをし、別の会員九人が頂上で、ト汁を作って食べていただいた、これはだいぶ前から続けている会の行事の一つなのです。そして全員の方が頂上に立つことができて、昨年登った姫神山に岩手山、遠くに五葉山と早池峰山、焼石連峰と栗駒山などなど見ることができ参加者は満足した様子、先頭と後の方では三十分ほどの時間の差はあるものの元気で無事下山、午後四時に夏油温泉を出発できました。参加した方に聞くとやはり常に「歩け歩け」している方が多いようですが、よくもこんなに元気に頑張られるものだと、今回も感心させられた市民登山教室でした。

多賀城山岳会員

思い出の歌

大代南 跡辺 三夫

流れも清き貞山河

流がるる末は太平洋

清き流れに竿さして

共に進まん健男児

我が大代青年団の応援歌である。戦前から戦後の何年頃迄か、多賀城青年団の運動会があつて、私は、小学の低学年のときからいつも応援にいったものである。黄色の鉢巻が代代で、八幡と南宮との三区が優勝を競った。審判に文句をつけに行くのは、〇〇さんがいつも先頭で、大きい体で迫力があつたからでもないだろうが、大體成功を収めたようである。運動会が近づくと、毎晩練習があり、私たち出場できないスポーツ音痴は、もっぱら橋のたもとで応援歌の練習だった。この歌の作詞は、故本郷 馨氏、先代代の宮司さんである。村祭りの太鼓の音が聞こえるこの頃、懐かしい歌を思い出している。

短歌

生き繼ぎてとうすみ蜻蛉 庭先の

紫蘇の花に來ぬ今年も無事に

跡辺文江

百舌鳴けよ汝が秋天の精悍を

羨しむ我ぞ我が分も鳴け

本郷貞子